
株式会社共栄燃産

平成28年度 環境活動レポート (平成28年9月1日～平成29年8月31日)

発行日 平成29年10月30日



組織の概要と許可内容



名称及び代表者
株式会社 共栄燃産
代表取締役 栗田 清貴

所在地
澄川事務所(本社) 北海道札幌市南区澄川6条4丁目7番2号
北広島営業所(積替保管施設) 北海道北広島市共栄4番4
安平営業所(中間処理施設) 北海道勇払郡安平町安平308番地26
タイヤショップサッポロ 北海道札幌市南区真駒内611番地1

環境管理責任者
管理課 課長 濱浦 隆
連絡先電話番号: 011-826-6345

事業内容
産業廃棄物の収集運搬・処分、自動車タイヤ・自動車用品の販売

事業の規模
設立 平成3年6月
資本金 10,000千円
売上高 367,080千円

事業年度
9月～8月

各事業所の従業員数と延べ床面積

	澄川事務所	北広島営業所	安平営業所	タイヤショップ サッポロ
従業員数	9名	12名	4名	1名
延床面積	196m ²	68m ²	660m ²	198m ²

産業廃棄物収集運搬業許可

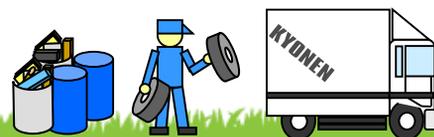
北海道 第00110006826号
許可年月日: 平成25年8月4日
許可有効年月日: 平成30年8月3日
許可品目: 廃プラスチック、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、紙くず、木くず、繊維くず、
ゴムくず、金属くず、がれき類、ガラス・コンクリート・陶器くず、鋳さい

産業廃棄物処分業許可

北海道 第00120006826号
許可年月日: 平成25年9月10日
許可有効年月日: 平成30年9月9日
許可品目: 廃プラスチック(破碎、圧縮)、金属くず(切断)

特別管理産業廃棄物処分業許可

北海道 第00150006826号
許可年月日: 平成29年6月30日
許可有効年月日: 平成34年6月29日
許可品目: 廃酸(pH2.0以下のもの)、廃油(揮発油類、灯油類及び軽油類)



受託した産業廃棄物の処理量



処理方法等		廃棄物等種類	処分方法等	処理量(t)
収集運搬		廃プラスチック類		4,228.5
		金属くず		230.0
		廃エレメント		31.4
		汚泥		12.0
		OA機器		5.6
		廃アルカリ		4.4
		木くず		1.4
		廃油		0.5
		廃蛍光管		0.4
		ガラス・コンクリ・陶磁器くず		0.4
		がれき類		0.03
収集運搬量合計				4,515
中間処理		廃プラスチック類		3,807.4
		金属くず		176.7
うち 再資源化等		廃プラスチック類		3,792
		金属くず		176.7
		再資源化等量小計		3,969
中間処理合計				3,984.1
中間処理後の産業廃棄物	最終処分(委託)	廃プラスチック類		14.6
	再資源化等	廃プラスチック類		3,792
		金属くず		176.7
		再資源化等量小計		3,969.1
中間処理後処分量合計				3,983.7

※平成28年9月～平成29年8月



運搬車両

- 25t車・・・ 2台
- 20t車・・・ 1台
- 8t車・・・ 1台
- 7t車・・・ 3台
- 6t車・・・ 1台
- 4t車・・・ 3台
- 2t車・・・ 2台

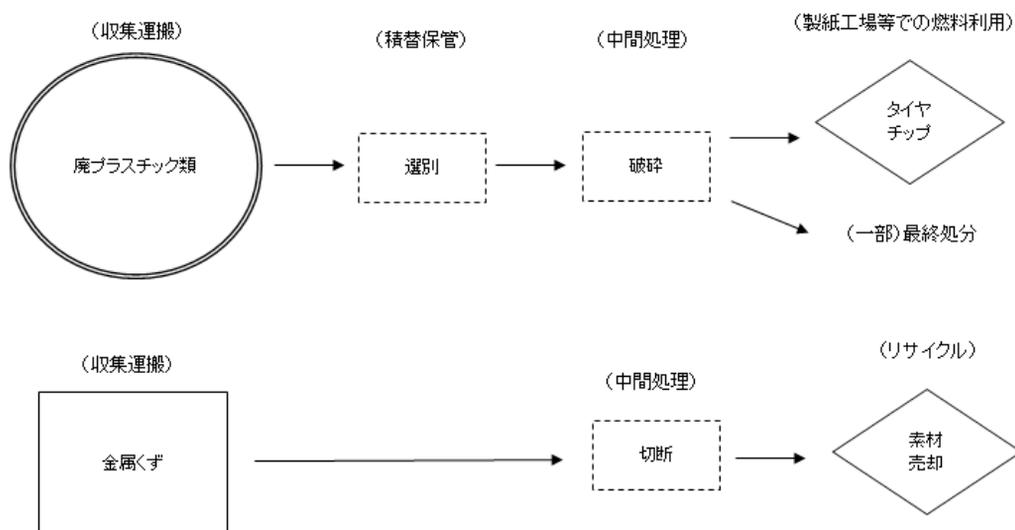
積替保管施設

種類	保管面積	保管上限
廃プラスチック類	960m ²	1,748m ³
		高さ4.0m
金属くず	25m ²	10m ³
		高さ1.25m

中間処理施設

施設の種類	処理能力
廃プラスチック類の破砕施設1	3.8t/日
廃プラスチック類の破砕施設2	4.8t/日
廃プラスチック類の破砕施設3	23.52t/日
廃プラスチック類の破砕施設4	32.76t/日
廃プラスチック類の破砕施設5	4.6t/日
廃プラスチック類の破砕施設6	1.8t/日
廃プラスチック類の圧縮施設	2.75t/日
金属くずの切断施設	5.8t/日

廃棄物処理フロー



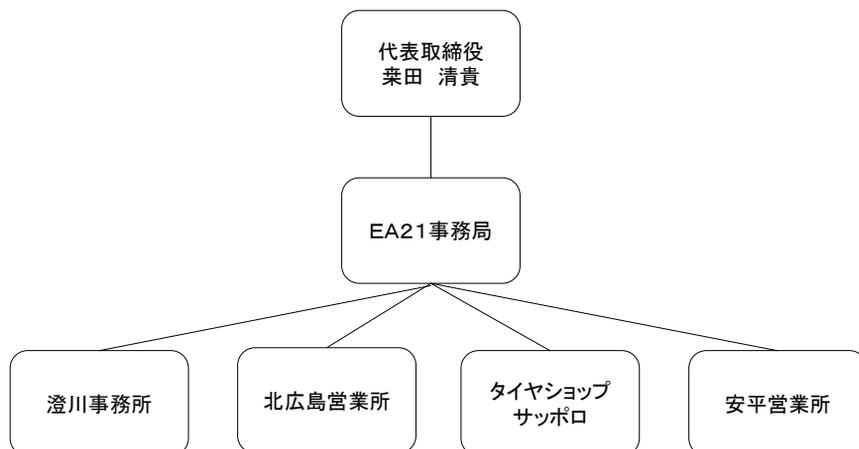
基本理念

当社は、廃タイヤの処理事業やタイヤの販売等、すべての企業活動を通じ、環境負荷の低減を図ると同時に、再資源化率の向上に努め、循環型社会の構築に貢献します。

行動指針

- ・産業廃棄物の収集運搬車両による二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- ・全社員による節電・節水への取り組みや、グリーン購入の推進を通じ、限りある地球資源の有効活用に努めます。
- ・産業廃棄物の収集運搬および中間処理における環境配慮を徹底します。
- ・環境関連法規等を遵守します。

実施体制



認証登録の対象：
全事業所

項目	単位	基準値		年度毎目標		
		平成26年度	平成27年度 (H27.09～H28.08)	平成28年度 (H28.09～H29.08)	平成29年度 (H29.09～H30.08)	
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	ガソリン	ℓ	10,075	9,974	9,874	9,773
		kg-CO2	23,391	23,157	22,923	22,689
	軽油	ℓ	110,874	109,765	108,657	107,548
		kg-CO2	290,971	288,061	285,152	282,242
電力の二酸化炭素排出量削減 ※1	kWh	89,239	88,346	87,454	86,562	
	kg-CO2	61,396	60,782	60,168	59,554	
一般廃棄物の削減	各営業所から出されたごみ袋数のカウントを今年度から開始する					
産業廃棄物の削減	t	35.6	35.2	34.9	34.2	
		(廃プラスチック類)				
水道水の削減	m ³	92	92	91	90	
グリーン購入比率の向上	%	42	42.5	42.8	43.2	
収集運搬システムの効率化	定期的な会議や教育の実施を通し、日頃の運転での注意点や改善できるポイントを共有していく。					

平成28年度の目標

※活動全体を振り返り、中期目標からの変更有。

- 自動車燃料のCO2排出量
 - ・281,551kg-co2(昨年度実績より1%減)
 - ・各車両の燃費を昨年度より1%向上

- 電力のCO2排出量
 - ・96,234kwh(昨年度実績より1%削減)

※CO2排出係数は、北海道電力の平成27年値(0.669kg-CO2/kWh)を採用

- 一般廃棄物量
 - ・一廃化燃ごみ全社で年間237袋(昨年度より1%減)
 - ・紙ごみ(古紙再生分)全社で年間129袋(昨年度より1%減)

- 産業廃棄物量
 - ・廃プラ最終処分量25.5t(昨年度と同量)

- 水使用量
 - ・200m³(昨年度より1%削減)

- グリーン購入率
 - ・25%(昨年度から3%向上)

- 収集運搬における環境配慮
 - ・定期的な会議の実施。収集運搬車両運転中の注意点、改善点等の共有。

自動車燃料のCO2排出量

【目標】

- ・281,551kg-co2(昨年度実績より1%減)
- ・各車両の燃費を昨年度より1%向上

【結果】

- ・290,034kg-co2(目標比+85,823kg-CO2)
- ・15台中7台達成(達成率47%)

【振り返り】

給油量で見ると、ガソリンは昨年比-460L、軽油は+2,572L。約半分の車両が燃費の向上を達成している。全社達成を目指して、ドライバー同士の情報交換の機会を増やすことで、意識を高めていく。

電力のCO2排出量

【目標】

- ・96,234kwh(昨年度実績より1%減)

※排出係数は北海道電力の平成27年値
0.669kg-CO2/kWhを採用

【結果】

- ・94,974kwh(目標比-1,260kwh)

【振り返り】

各事業場別には、澄川事務所が^δ+143kwh、北広島営業所が+1,161kwh、タイヤショップが+401kwhと増加しているが、最も電力使用量の多い安平営業所のみ-3,937kwhと大幅に減少した。前年の使用量増が著しかったため、前前年とも比較すると、処理量の増加に従って年々電力使用は増えている。

廃棄物量

【目標】

- ・(一廃)可燃ごみ237袋
- ・(一廃)古紙再生129袋
- ・(産廃)廃プラ最終処分25.5t

【結果】

- ・可燃ごみ294袋
- ・古紙再生95袋
- ・廃プラ最終処分14.6t

【振り返り】

北広島営業所だけで、可燃ごみが+49袋と特に増えた。人数が増えたことが起因しているが、古紙再生に出す分別を徹底することでもう少し減らすことができたのではないかとと思われる。

水使用量

【目標】

- ・200m3(昨年度より1%減)

【結果】

- ・278.5m3(目標比+78.5m3)

【振り返り】

運行管理者を中心に車の整備を計画的に行うようになり、以前と比べ洗車もくまなくできるようになった。これは車両の維持管理や燃費向上にとっては良いことなので、一概に水使用量の増加が悪いとは言えない。また、中古タイヤの洗浄にも水を使うため、こちらも出荷増に伴い必然的に水使用量が増える。来期以降は目標設定を再検討する。

グリーン購入比率

【目標】

・25% (昨年度より3%向上)

【結果】

・33% (目標比+8)

【振返り】

これまで都度いろいろな場所で購入していた消耗品等を、一括で購入する仕組みに変更し、無駄な買い物が減ったことが目標達成に貢献したと思われる。

収集運搬における環境配慮

【目標】

・定期的な会議の実施。収集運搬車両運転中の注意点・改善点等の共有。

【結果・振返り】

運行管理者を中心に、安全運転に関する勉強会を開催したり、オリジナルの安全標語を作成して車両内に掲示するなどの取組みを行った

取組内容の紹介

ドライバー全員で話し合っ決めて、当社オリジナルの安全標語です。

車内用のステッカー。
注意喚起でリスク低減！



株式会社共栄燃産

ドライバー安全標語

- + 気を付けよう、上と後ろと左右確認
- + 速度と気持ちは、ゆとりを持って
- + 過信と油断が事故の元
- + 身につけよう、基本動作とプロ意識



株式会社共栄燃産

ドライバー安全標語

- + 気を付けよう、上と後ろと左右確認
- + 速度と気持ちは、ゆとりを持って
- + 過信と油断が事故の元
- + 身につけよう、基本動作とプロ意識

営業所用の掲示物。
毎朝の点呼で確認！



項目	活動内容	評価、次年度に向けて
自動車燃料のCO2排出量削減	エコドライブや安全運転に関するドライバー向けの講習を原則毎月実施。教本や啓発の冊子を用いて、情報提供や意見交換を行う。	繁忙期を除き、定期的に勉強会を行うことができた。ドライバーからの意見により、点呼や点検の帳票様式を改善したり、安全標語を作成するなど、エコドライブや安全運転への意識が高まっており、自主性も見られる。一時的なもので終わらないよう、来年以降も継続していく。
電力のCO2排出量削減	時間外労働は各課責任者の許可を得るものとし、各課責任者は理由を記した残業許可確認表を管理課に提出する。	業務終了時間を報告するだけが目的になりつつあり、本当に必要な残業は積極的に行い、不要不急の残業だけ削減するよう改めて社長から社員に説明があった。特に繁忙期間中等は個別の確認作業が煩雑になり提出も滞るため、来年度以降は管理方法を再考する。
一般廃棄物の削減	プリンタカウンターに枚数制限を設け、コピー用紙使用枚数を削減する。カウンターリセット時に前月の使用枚数を確認、必要に応じて指導する	事務用品と資材の購入は、これまで複数のサイトや実店舗で都度購入していたが、一つのサイトに集約。経費削減だけでなく、グリーン購入対象商品購入推進や、無駄な買い物の削減に繋げる。また、カウンター制限は定着し、カラー印刷必要時には許可を取るようにになっている。不必要なカラー印刷が無くなっているため、来年以降も継続する。
産業廃棄物の削減	廃プラ選別基準と置き場所の徹底。	担当業務に関する勉強会で、ヤード内の整理整頓と置き場所について意見交換を行った。特に繁忙期に保管量が増加すると置き場所が曖昧になりやすいため、作業担当者で注意事項を再確認するなどした。来年度は人員増を予定しているため、ルールの周知と再教育を頻繁に行っていく。
収集運搬における環境配慮	作業場の衛生管理の徹底。定期的な会議と意見交換の実施。	毎週全員で行う清掃を継続した。ヤードからの泥水流出に気を付けるよう指導した。一部のお客様の排出事業場の清掃活動や分別徹底周知活動を行った。清掃活動は既存業務で人員が割きづらいこと等による継続性が来年度への課題。

環境関連法規等の順守状況

当社の事業に関わる環境関連法規を取り纏めの上、遵守状況を確認した結果、逸脱はありませんでした。また過去3年間にわたり、違反や関連機関からの指摘、利害関係者からの訴訟、外部からの環境に関する苦情等もありませんでした。

エコアクション21への取り組みが3年目を迎えました。

活動全体で特に目立ったのは、社員の安全運転への意識の高まりだと感じます。業種柄、安全運転の徹底は最も教育が必要な部分の一つです。数字的な結果には出づらいますが、社員自ら考え取り組む姿勢が見られた一年でした。今後も軽微な事故も含めてゼロを目指していくよう、会社全体で努力していきます。

車両に関連していえば、自動車燃料の消費量削減も、環境配慮だけでなく経費面でも大きな影響がある項目です。安全運転と燃費向上は別個の課題ではありませんので、こちらも併せて教育を充実させたいところです。

その他の項目では、水道使用量など、単純な削減目標だけでは事業の拡大とそぐわないことが顕著になってきました。これまでは“まずは削減できることを目標に”と数値のみ設定してきましたが、来年度以降は、数値以外の目標設定、または目標の項目からは除外することなども含めて検討する必要が出てきました。

エコアクションの環境活動を、それ単一でこなすような意識は無くしていき、日常の業務や会社の成長に合わせた、より充実したものにして参ります。

平成29年10月
株式会社共栄燃産
代表取締役 栗田清貴